

1. 概要

平成24年10月1日現在の住民基本台帳に基づく浜松市の総人口は816,490人で、前年に比べ1,885人(0.23%)減少している。世帯数は320,171世帯で、1,958世帯(0.62%)増加している。

性別にみると、男性が406,168人(構成比49.8%)で、前年に比べ1,192人(0.29%)減少している。女性は410,322人(同50.2%)で、前年に比べ693人(0.17%)減少している。性比(女性を100とした場合の男性の割合)は99.0で、平成23年の99.1に比べわずかに減少している。

1世帯あたりの平均人員は2.55人で、前年に比べ、0.02人減少している。

【図1 浜松市人口の推移】

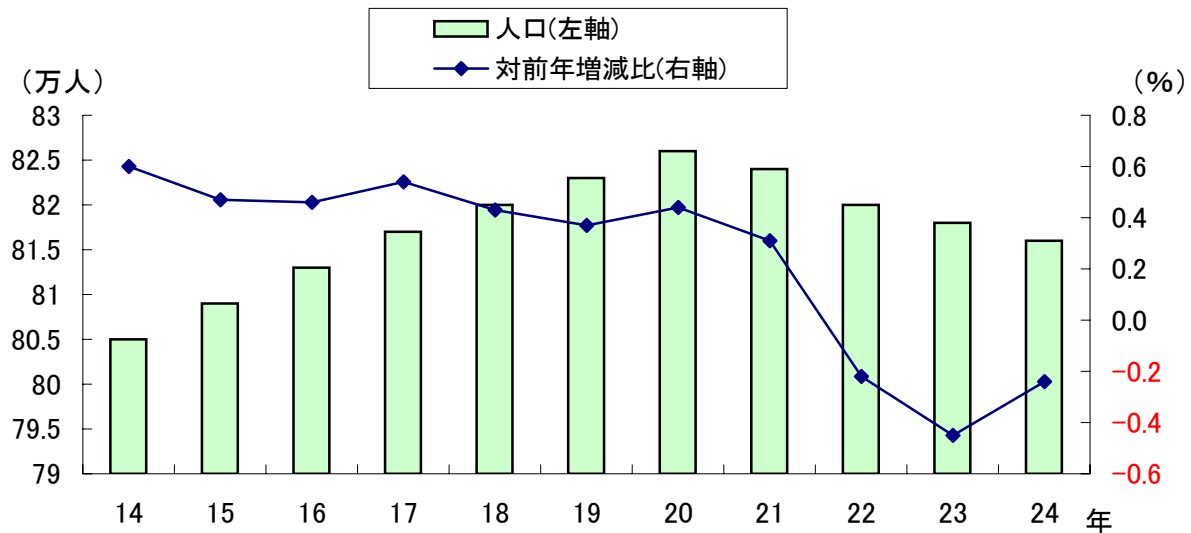


表1 浜松市人口・世帯数の推移

年	総 人 口			日 本			
	総 数	前年比%	男	女	世 帯 数	総 数	前年比%
平成 14	805 180	0.47	399 775	405 405	287 511	780 649	0.33
15	808 840	0.45	401 666	407 174	291 931	782 875	0.29
16	813 202	0.54	403 861	409 341	296 758	784 852	0.25
17	816 658	0.42	406 065	410 593	301 643	786 300	0.18
18	819 699	0.37	408 372	411 327	306 014	788 102	0.23
19	823 272	0.44	410 378	412 894	313 150	790 292	0.28
20	825 810	0.31	411 822	413 988	316 716	792 191	0.24
21	824 023	0.22	410 644	413 379	318 158	793 505	0.17
22	820 317	0.45	408 612	411 705	317 669	792 788	0.09
23	818 375	0.24	407 360	411 015	318 213	792 691	0.01
24	816 490	0.23	406 168	410 322	320 171	792 334	0.05

注1) 平成13年～16年は12月末日人口、平成17年以降は10月1日人口

注2) 平成23年以前は、日本人住民は住民登録数、外国人住民は外国人登録数を集計。

表2 浜松市人口・世帯数等

	平 成 23 年 10 月 1 日						前 年 比	
	総 数	男	女	性比	世帯数	1世帯あたり 平均人員	総 数	前年比%
総 人 口	818 375	407 360	411 015	99.1	318 213	2.57	816 490	0.23
日本人住民	792 691	394 635	398 056	99.1	305 874	2.59	792 334	0.05
外国人住民	25 684	12 725	12 959	98.2	12 339	2.08	24 156	5.95

注1) 平成23年10月1日の日本人住民は住民登録数、外国人住民は外国人登録数を集計。

2. 日本人住民数と外国人住民数

平成24年10月1日現在の日本人住民数は792,334人で、前年に比べ357人(0.05%)減少している。世帯数は309,078世帯で、3,204世帯(1.05%)増加している。

性別にみると、男性が394,282人(構成比49.8%)で、前年に比べ353人(0.09%)減少している。女性は398,052人(同50.2%)で、前年に比べ4人(0.001%)減少している。性比(女性を100とした場合の男性の割合)は平成23年同様、99.1である。

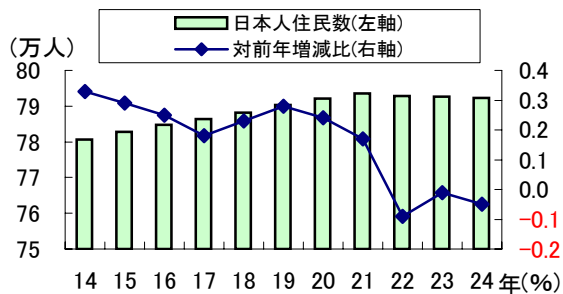
1世帯あたりの平均人員は2.56人で、前年に比べ0.03人減少している。

平成24年10月1日現在の外国人住民数は24,156人で、前年に比べ1,528人(5.95%)減少している。世帯数も11,093世帯で、前年に比べ1,246世帯(10.10%)減少している。

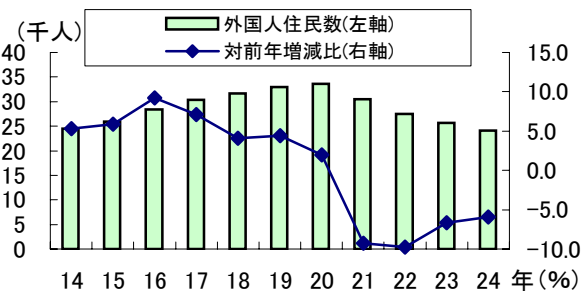
性別にみると、男性が11,886人(構成比49.2%)で、前年に比べ839人(6.59%)減少、女性は12,270人(同50.8%)で、前年に比べ689人(5.32%)減少している。性比(女性を100とした場合の男性の割合)は96.9で、平成23年の98.2に比べ減少している。

1世帯あたりの平均人員は2.18人で、前年に比べ0.1人増加している。

【図2 浜松市人口の推移(日本人住民)】



【図3 浜松市人口の推移(外国人住民)】



注)平成13年～16年は12月末日人口、平成17年以降は10月1日人口

人 住 民			外 国 人 住 民					
男	女	世 帯 数	総 数	前年比%	男	女	世 帯 数	
387 101	393 548	274 560	24 531	10.35	12 674	11 857	12 951	
388 413	394 462	278 240	25 965	5.85	13 253	12 712	13 691	
389 539	395 313	281 631	28 350	9.19	14 322	14 028	15 127	
390 440	395 860	285 724	30 358	7.08	15 625	14 733	15 919	
391 665	396 437	290 052	31 597	4.08	16 707	14 890	15 962	
393 023	397 269	293 790	32 980	4.38	17 355	15 625	19 360	
394 277	397 914	297 481	33 619	1.94	17 545	16 074	19 235	
394 974	398 531	300 543	30 518	9.22	15 670	14 848	17 615	
394 755	398 033	302 750	27 529	9.79	13 857	13 672	14 919	
394 635	398 056	305 874	25 684	6.70	12 725	12 959	12 339	
394 282	398 052	309 078	24 156	5.95	11 886	12 270	11 093	

平 成 24 年 10 月 1 日										
男	前年比%	女	前年比%	性比	世帯数	前年比%	1世帯あたり 平均人員	面積km ²	人口密度	
406 168	0.29	410 322	0.17	99.0	320 171	0.62	2.55	1,558.04	524	
394 282	0.09	398 052	0.00	99.1	309 078	1.05	2.56	-	-	
11 886	6.59	12 270	5.32	96.9	11 093	10.10	2.18	-	-	

3. 行政区別人口

行政区別に人口・世帯数をみると、中区が人口・世帯数ともに最も多く、人口は242,418人(構成比29.7%)、世帯数は106,447世帯(同33.2%)である。人口・世帯数ともに最も少ないのは天竜区で、人口は33,716人(同4.1%)、世帯数は13,105世帯(同4.1%)である。

人口密度も同様に、最も高いのは中区の5,481人/km²、最も低いのは天竜区の36人/km²である。

性比(女性を100とした場合の男性の割合)は、南区が100.9と最も高く、続く東区も100.4で、男性の割合が高い。性比が最も低いのは、天竜区の93.0である。

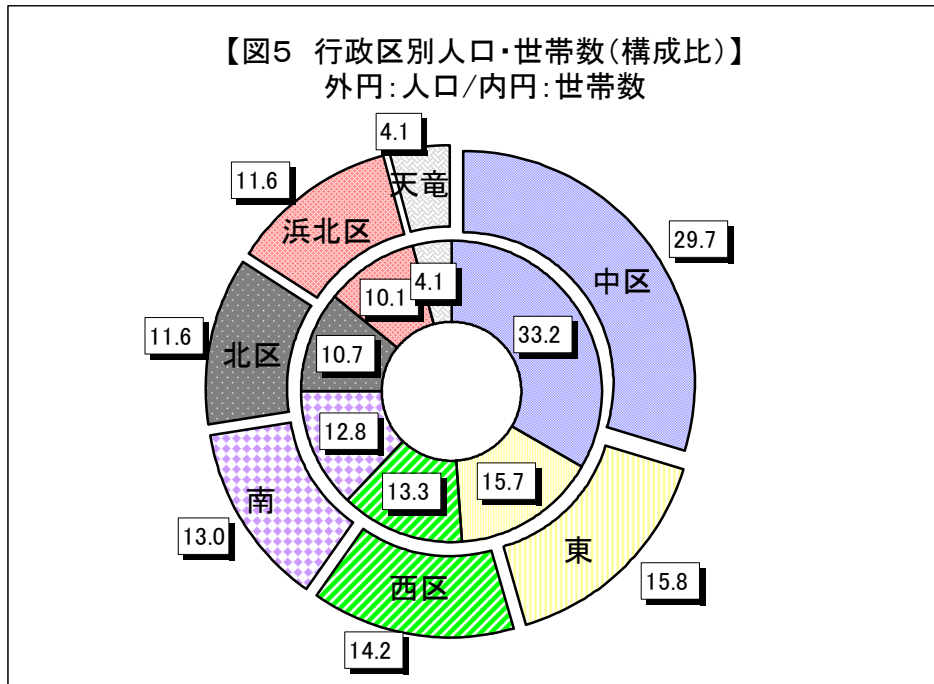


表3 区別の人口・世帯数等

区	平成23年10月1日				平		
	総数	男	女	世帯数	総数	前年比%	男
中区	242 985	120 868	122 117	106 000	242 418	0.23	120 480
東区	129 255	64 849	64 406	49 925	129 372	0.09	64 817
西区	116 309	58 015	58 294	42 353	115 643	0.57	57 649
南区	106 081	53 287	52 794	41 018	105 513	0.54	52 994
北区	95 158	46 942	48 216	33 801	95 055	0.11	46 904
浜北区	93 968	46 681	47 287	31 719	94 773	0.86	47 075
天竜区	34 619	16 718	17 901	13 397	33 716	2.61	16 249

4. 年齢別人口

年齢別に人口をみると、実数では老年人口(65歳以上)が増加し、年少人口(15歳未満)と生産年齢人口(15歳～64歳)が減少している。構成比では、年少人口が14.0%で前年比0.1%減、生産年齢人口が63.0%で前年比0.6%減少しているのに対し、老年人口は23.0%で前年比0.7%増加している。

行政区別にみると、年少人口の占める割合が最も高いのは浜北区(15.2%)で、最も低いのは天竜区(8.4%)である。

生産年齢人口の占める割合が最も高いのは中区(64.7%)で、最も低いのは、年少人口と同様天竜区(54.2%)である。

表4 年齢3区分別人口

	平成23年	平成24年							
	浜松市	浜松市	中区	東区	西区	南区	北区	浜北区	天竜区
年少人口(15歳未満)	114 924	114 026	32 007	19 334	17 542	15 157	12 740	14 426	2 820
構成比(%)	14.1	14.0	13.2	14.9	15.1	14.4	13.4	15.2	8.4
生産年齢人口(15歳～64歳)	520 825	514 218	156 851	82 159	72 103	66 432	59 276	59 107	18 290
構成比(%)	63.6	63.0	64.7	63.5	62.4	62.9	62.4	62.4	54.2
老年人口(65歳以上)	182 626	188 246	53 560	27 879	25 998	23 924	23 039	21 240	12 606
構成比(%)	22.3	23.0	22.1	21.6	22.5	22.7	24.2	22.4	37.4

平成24年10月1日		世帯数		1世帯あたり 平均人員	人口構成比	面積 k m ²	人口密度
女	性比		前年比%				
121 938	98.8	106 447	0.42	2.28	29.7	44.23	5 481
64 555	100.4	50 400	0.95	2.57	15.8	46.29	2 795
57 994	99.4	42 525	0.41	2.72	14.2	114.40	1 011
52 519	100.9	41 075	0.14	2.57	13.0	47.02	2 244
48 151	97.4	34 227	1.26	2.78	11.6	295.59	322
47 698	98.7	32 392	2.12	2.93	11.6	66.51	1 425
17 467	93.0	13 105	2.18	2.57	4.1	944.00	36

注)平成22年3月16日 浜名湖における浜松市と湖西市及び新居町との境界の決定並びに浜松市と湖西市の境界修正により面積変更

年齢構成指数をみると、年少人口指数は同0.1ポイント上昇の22.2、老年人口指数は同1.5ポイント上昇の36.6、従属人口指数は同1.7ポイント上昇の58.8、老年化指数は同6.2ポイント上昇の165.1である。老年化指数の上昇が著しく、高齢化が進んでいることが分かる。

行政区別にみると、老年人口指数・従属人口指数において天竜区が突出して高く、生産年齢人口が少ないことを示している。老年化指数は全ての区で100を超えており、老年人口が年少人口を上回っていることが分かる。

【人口の年齢構成の特徴を表す指数】

- 年少人口指数(生産年齢人口に占める年少人口の割合)

$$\frac{\text{年 少 人 口}}{\text{生 産 年 齢 人 口}} \times 100$$

- 老年人口指数(生産年齢人口に占める老年人口の割合)

$$\frac{\text{老 年 人 口}}{\text{生 産 年 齢 人 口}} \times 100$$

- 従属人口指数(生産年齢人口に占める年少人口と老年人口の和)

$$\frac{\text{年 少 人 口} + \text{老 年 人 口}}{\text{生 産 年 齢 人 口}} \times 100$$

- 老年化指数(年少人口に占める老年人口の割合)

$$\frac{\text{老 年 人 口}}{\text{年 少 人 口}} \times 100$$

【図6 年齢3区分別人口(構成比)】

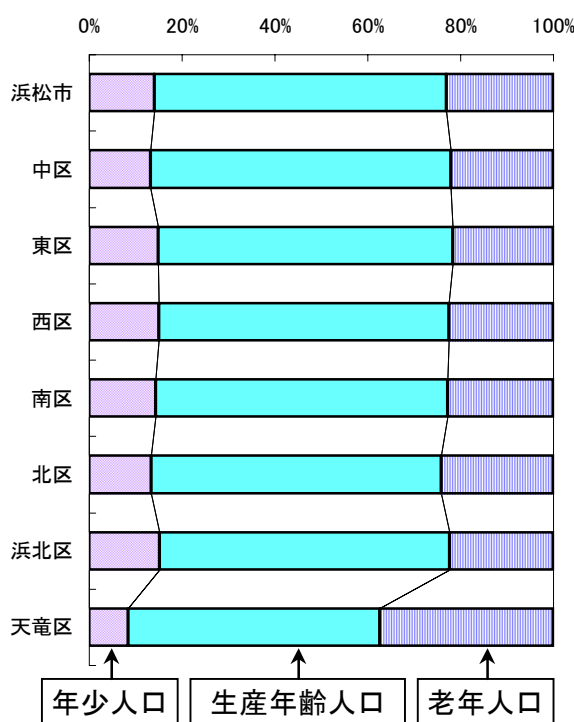


表5 年齢構成指数

	平成23年	平成24年							
	浜松市	浜松市	中区	東区	西区	南区	北区	浜北区	天竜区
年少人口指数	22.1	22.2	20.4	23.5	24.3	22.8	21.5	24.4	15.4
老年人口指数	35.1	36.6	34.2	33.9	36.1	36.0	38.9	35.9	68.9
従属人口指数	57.1	58.8	54.6	57.5	60.4	58.8	60.4	60.3	84.3
老年化指数	158.9	165.1	167.3	144.2	148.2	157.8	180.8	147.2	447.0

日本人住民の平均年齢は44.60歳で、前年の44.31歳より0.29歳上昇している。男女別にみると、男性は43.18歳(前年42.88歳)、女性は46.01歳(同45.73歳)で、ともに前年に比べ上昇している。外国人住民の平均年齢は32.75歳で、前年の32.36歳より0.39歳上昇している。男女別にみると、男性は32.29歳(前年32.08歳)、女性は33.19歳(同32.73歳)で、ともに前年に比べ上昇している。

行政区別にみると、日本人住民の平均年齢は、前年と同様すべての区において上昇しており、最も上昇幅が大きかったのは西区と南区の0.33歳で、最も上昇幅が小さかったのは浜北区の0.23歳であった。外国人住民の平均年齢は、前年に比べ、浜北区において下降している。

	平成23年			平成24年		
	男	女	合計		女	合計
浜松市	42.88	45.73				44.60
中区			44.23		46.02	44.55
東区	41.84	44.33	43.08	42.10	44.57	
西区	41.92	44.86	43.40	42.28	45.18	
南区	42.46	45.34	43.89	42.50	45.61	
北区		46.70	45.16	43.89		
浜北区		44.68	43.65	42.82	44.93	
天竜区						

	男					
浜松市						32.75
中区						33.12
東区						
西区						31.60
南区						
北区			32.70			
浜北区						
天竜区						

人口ピラミッド(5歳階級)は、住民基本台帳人口において、第一次ベビーブーム世代である62～64歳(昭和22～24年生)と、第二次ベビーブーム世代である37～40歳(昭和46～49年生)の人口が多いことを表している。外国人登録人口は、30歳代前半の人口が最も多い。

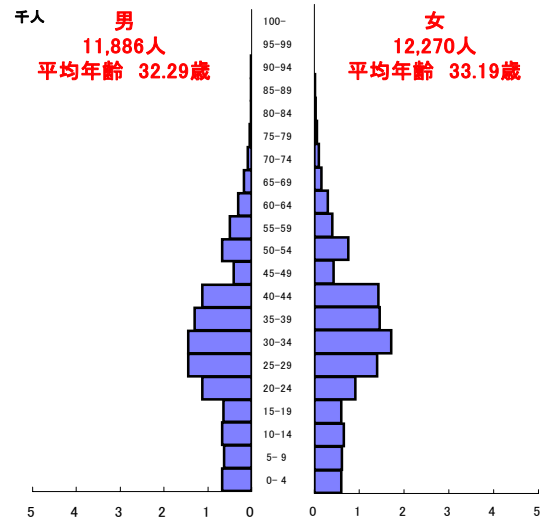
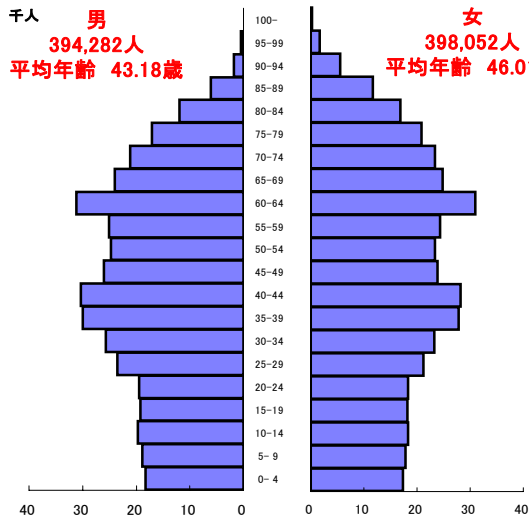
行政区別にみても概ねその傾向があるが、特徴的な区もある。北区の住民基本台帳人口は、他区に比べ年齢階級による凹凸が少ない。天竜区の住民基本台帳人口には、第二次ベビーブーム世代の凸が見られない。

【図7 人口ピラミッド(5歳階級)】

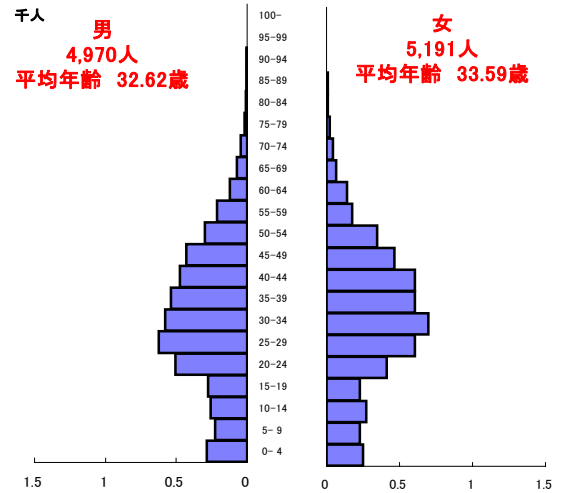
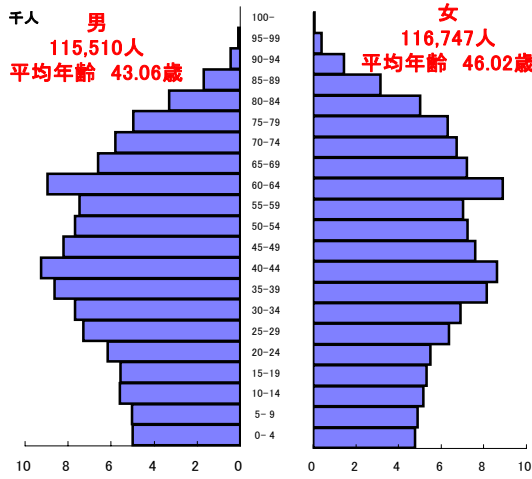
<日本人住民>

<外国人住民>

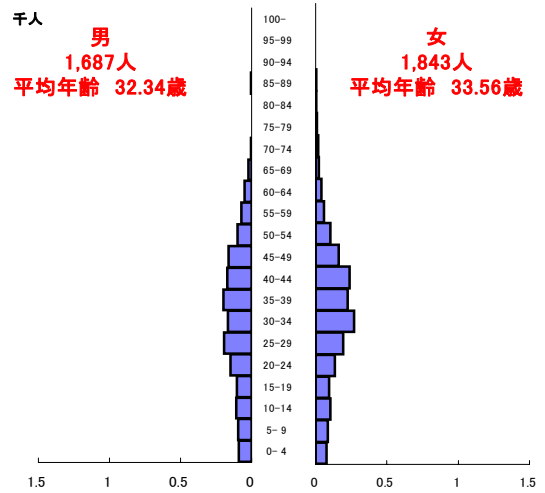
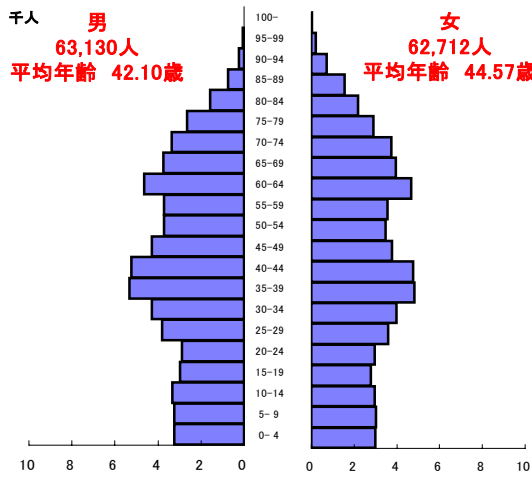
《 浜 松 市 》



《 中 区 》



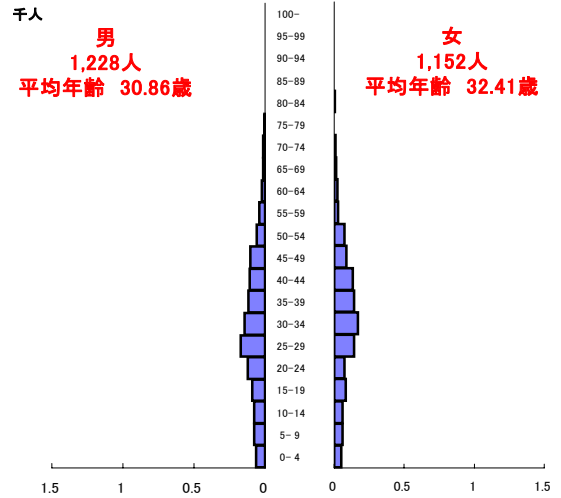
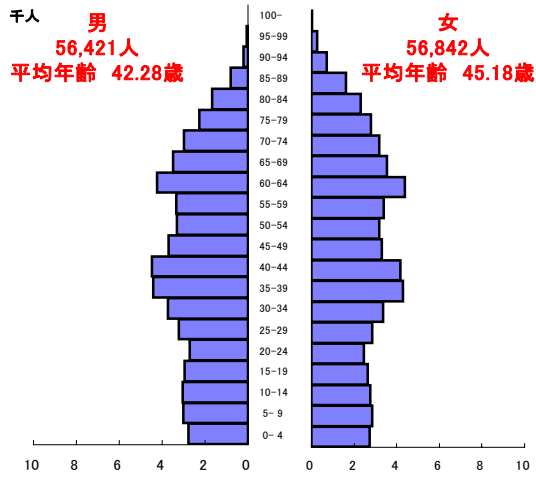
《 東 区 》



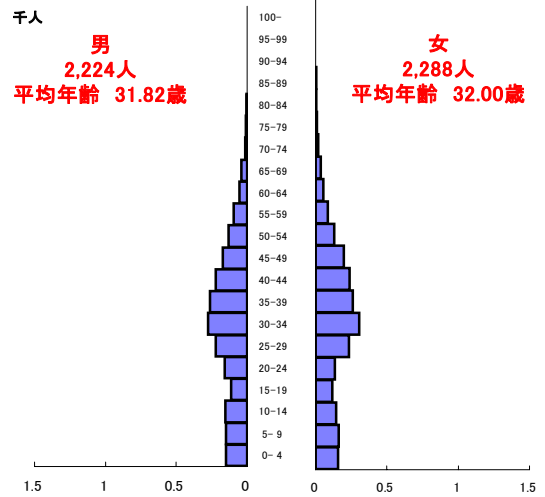
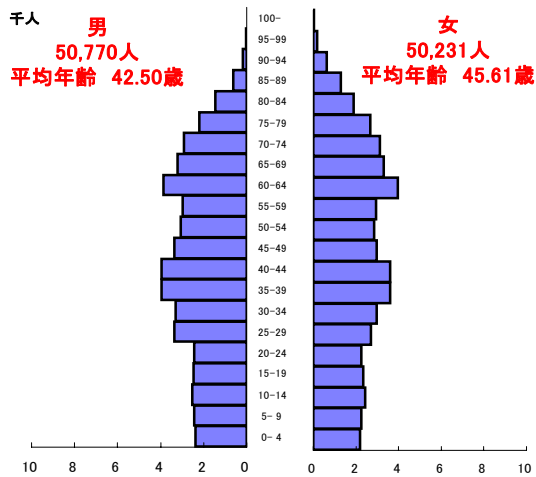
〈日本人住民〉

《 西 区 》

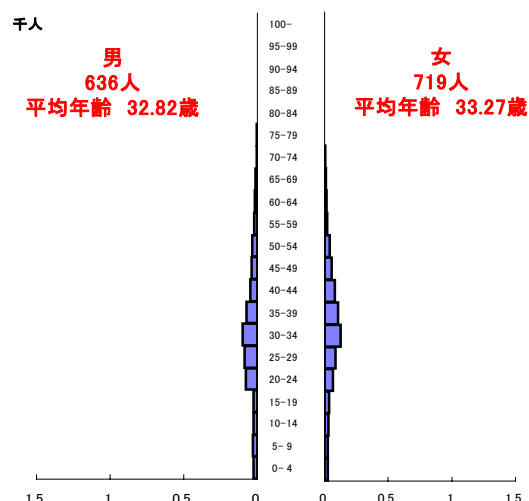
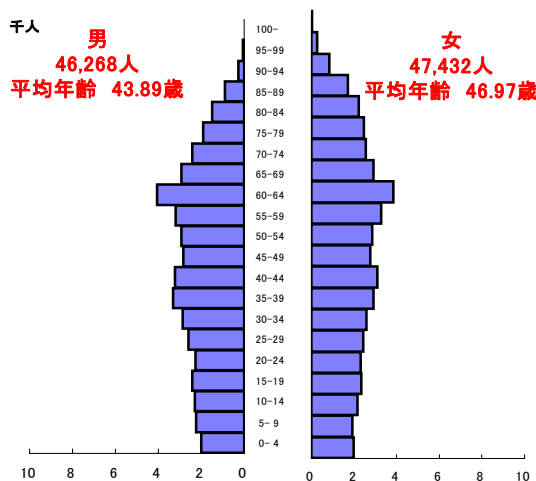
〈外国人住民〉



《 南 区 》



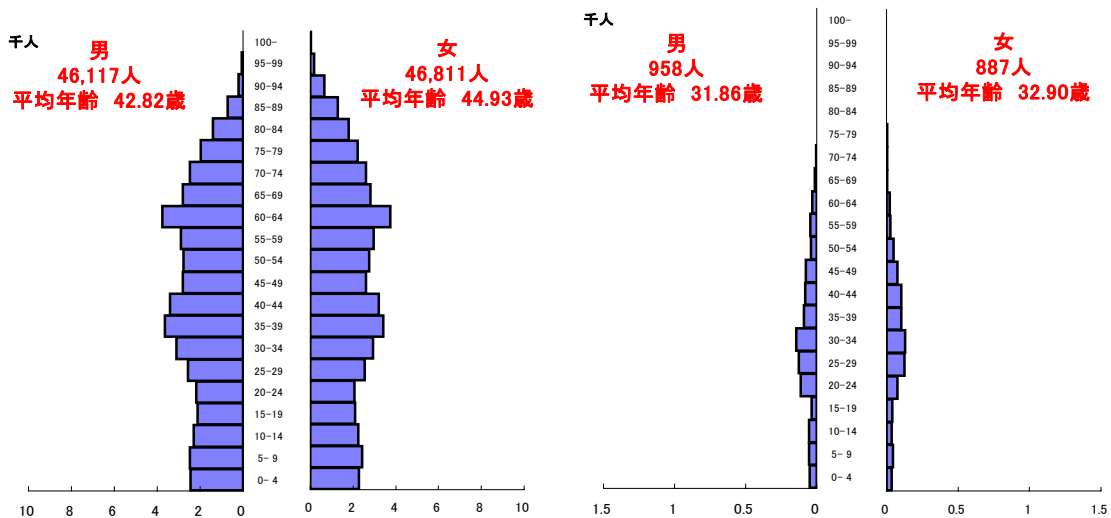
《 北 区 》



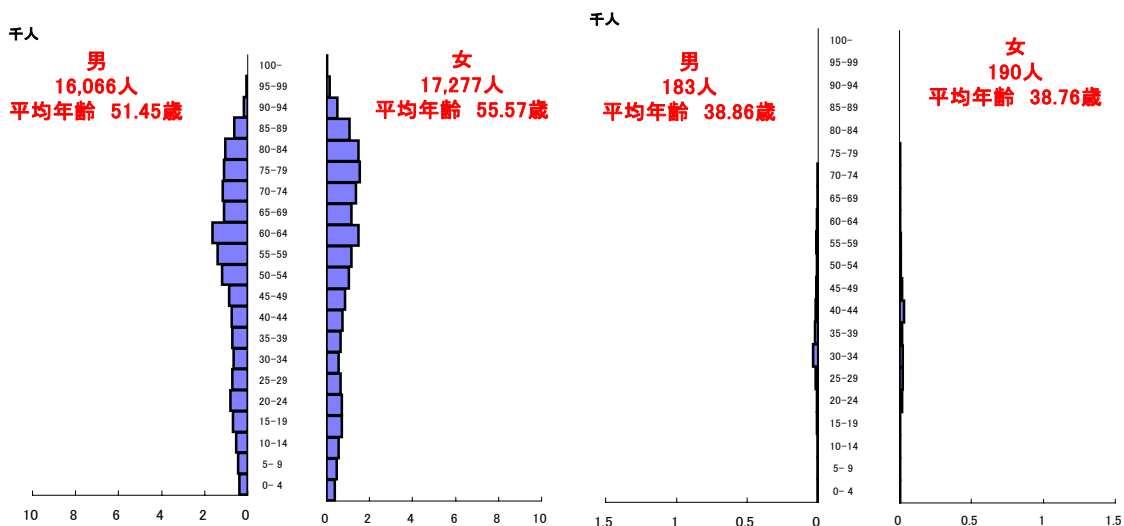
〈日本人住民〉

〈外国人住民〉

《 浜 北 区 》



《 天 竜 区 》



5. 人口動態(平成24年1月～12月)

(1) 自然動態

平成24年1月から12月までの自然動態をみると、出生数は7,380人、出生率(人口1,000人あたりの出生数)は9.04‰(パーミル)である。これに対し、死亡数は7,599人、死亡率(人口1,000人あたりの死亡数)は9.31‰で、両者の差である自然増加数は△219人、自然増加率(人口1,000人あたりの自然増加数)は△0.27‰である。

前年と比較すると、出生数は103人増で2年ぶり増加、死亡数は232人増で6年連続増加している。自然増加数は219人減で5年連続の減少である。

行政区別にみると、出生数、死亡数ともに中区、東区、西区の順に多い。自然増加数は東区、浜北区、南区の順に多く、中区、西区、北区及び天竜区では減少している。

率をみると、出生率が最も高いのは東区、最も低いのは天竜区である。死亡率が最も高いのは天竜区、最も低いのは浜北区である。自然増加率は、最も高いのが東区、最も低いのが天竜区である。

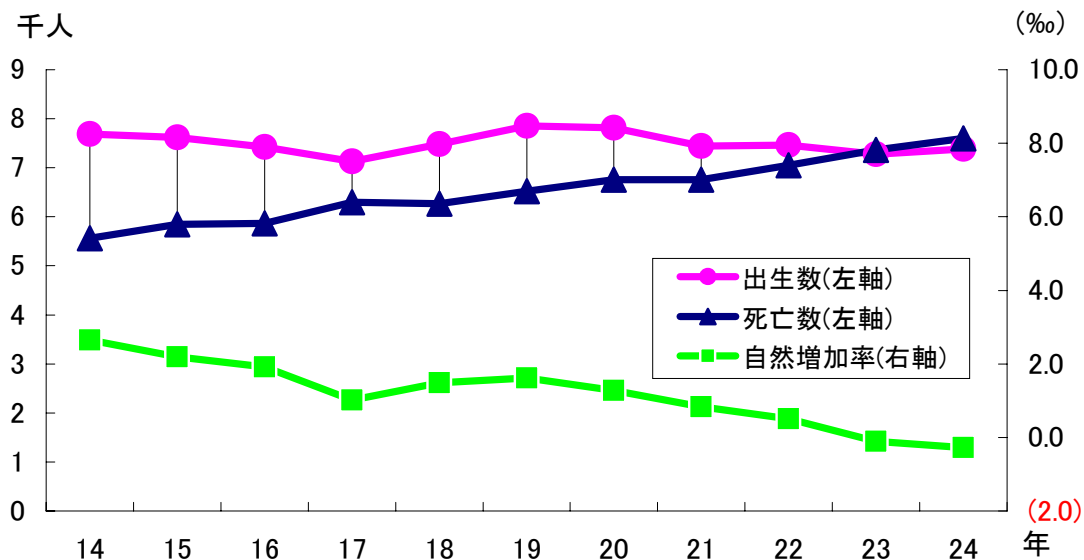


表6 自然動態

区 別	出 生			死 亡			自 然 増 加		
	総 数	出生率(‰)	前年比(%)	総 数	死亡率(‰)	前年比(%)	総 数	自然増加率(‰)	前年比(%)
浜松市	7,380	9.04	1.42	7,599	9.31	3.15	219	0.27	143.33
中 区	2,093	8.63	-	2,103	8.68	-	10	0.04	-
東 区	1,394	10.78	-	1,109	8.57	-	285	2.20	-
西 区	1,084	9.37	-	1,098	9.49	-	14	0.12	-
南 区	978	9.27	-	912	8.64	-	66	0.63	-
北 区	766	8.06	-	1,019	10.72	-	253	2.66	-
浜北区	919	9.70	-	810	8.55	-	109	1.15	-
天竜区	146	4.33	-	548	16.25	-	402	11.92	-
平成23年	7,277	8.89	2.53	7,367	9.00	4.50	90	0.11	121.63

(2) 社会動態

平成24年1月から12月までの社会動態をみると、転入者数は21,533人、転入率(人口1,000人あたりの転入者数)は26.37‰(パーミル)である。これに対し、転出者数は23,789人、転出率(人口1,000人あたりの転出者数)は29.14‰で、両者の差である社会増加数は2,256人減少となり、社会増加率(人口1,000人あたりの社会増加数)は△2.76‰である。

前年と比較すると、転入者数は56人減、転出者数は535人増加となった。社会増加数は591人減で、35.50‰の減少となっている。

行政区別にみると、転入者数・転出者数ともに中区、東区、西区の順に多い。社会増加数はすべての区において減少しており、中区、南区、西区の順に減少数が多い。率をみると、転入率・転出率ともに最も高いのは中区である。社会増加率はすべての区で減少しているが、なかでも浜北区が最も減少の幅が少なく、北区がそれに続いている。

自然動態と社会動態を比較すると、本年は自然増加数が219人減少しているのに対し社会増加数は2,256人減少となり、前年の減少に比べ、その幅は大きくなっている。

【図9 転入者数、転出者数及び社会増加率の推移】

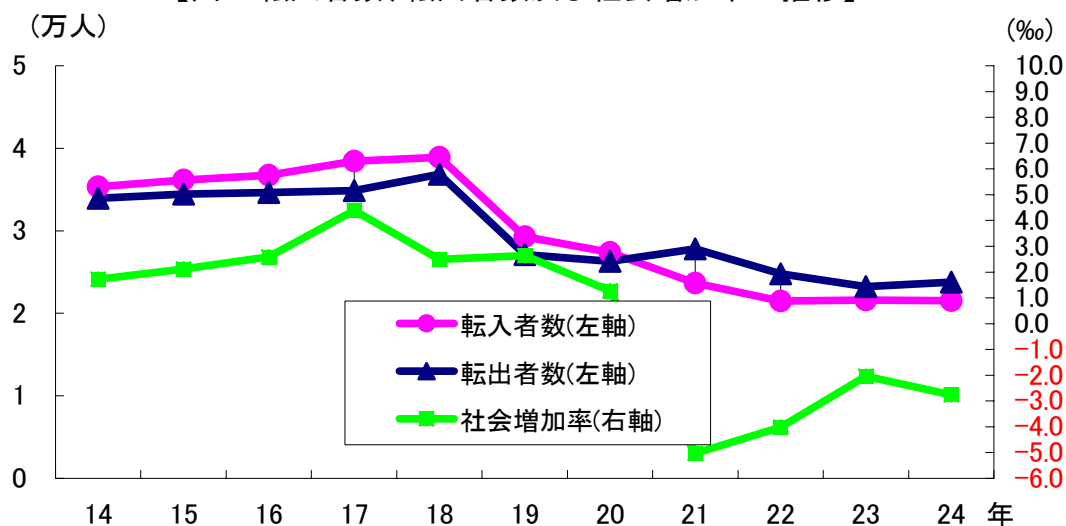


表7 社会動態(市外移動)

区 別	転 入			転 出			社 会 増 加		
	総 数	転入率(‰)	前年比(%)	総 数	転出率(‰)	前年比(%)	総 数	社会増加率(‰)	△は減少率前年比(%)
浜松市	21,533	26.37	0.26	23,789	29.14	2.30	2,256	2.76	35.50
中 区	8,656	35.71	-	9,347	38.56	-	691	2.85	-
東 区	3,318	25.65	-	3,540	27.36	-	222	1.72	-
西 区	2,868	24.80	-	3,332	28.81	-	464	4.01	-
南 区	2,505	23.74	-	3,038	28.79	-	533	5.05	-
北 区	1,915	20.15	-	2,039	21.45	-	124	1.30	-
浜北区	1,860	19.63	-	1,945	20.52	-	85	0.90	-
天竜区	411	12.19	-	548	16.25	-	137	4.06	-
平成23年	21,589	26.38	0.43	23,254	28.41	6.18	1,665	2.03	49.39

6. 人口移動状況(住民基本台帳・平成24年1月～12月)

平成24年1月から12月までの人口移動状況をみると、東海地方での出入りが最も多く、転入者は8,808人(構成比52.3%)、転出者は8,395人(46.6%)である。以下、関東地方、近畿地方と続いている。

東海地方を県別にみると、転入者・転出者ともに最も多いのは静岡県で、東海地方における移動者の約6割を占めている。関東地方においては、転入者・転出者ともに東京都、神奈川県に多い。

大都市(東京都特別区部及び政令指定都市)別にみると、転入者は東京都特別区部、静岡市、名古屋市の順に多く、転出者は東京都特別区部、名古屋市、静岡市の順に多い。

全国でみると1,811人の転出超過であるが、北陸甲信越、東海、中国地方に対しては転出超過である。東海地方においては413人の転入超過であるが、愛知県に対しては転出超過である。

表8 地方別転入・転出者数

地方	転 入				転 出				転入超過数(△は転出超過数)		
	総数	構成比(%)	男	女	総数	構成比(%)	男	女	総数	男	女
総数	16,830	100.0	9,733	7,097	18,011	100.0	10,220	7,791	1181	487	694
北海道	258	1.5	157	101	275	1.5	181	94	17	24	7
東北	344	2.0	196	148	552	3.1	317	235	208	121	87
関東	4,102	24.4	2,452	1,650	5,588	31.0	3,143	2,445	1486	691	795
北陸甲信越	658	3.9	394	264	611	3.4	368	243	47	26	21
東海	8,808	52.3	4,928	3,880	8,395	46.6	4,656	3,739	413	272	141
近畿	1,204	7.2	690	514	1,221	6.8	694	527	17	4	13
中国	545	3.2	386	159	357	2.0	218	139	188	168	20
四国	107	0.6	65	42	147	0.8	81	66	40	16	24
九州・沖縄	804	4.8	465	339	865	4.8	562	303	61	97	36

注1) 住民基本台帳人口移動報告月報(総務省統計局)による。

注2) 東北地方：青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県 関東地方：茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県 北陸甲信越地方：新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県 近畿地方：滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県 中国地方：鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県 四国地方：徳島県、香川県、愛媛県、高知県 九州・沖縄地方：福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

注3) 都道府県別・大都市別の転入・転出者数は、統計表6に掲載。

表9 東海地方県別転入・転出者数

県	転 入				転 出				転入超過数(△は転出超過数)		
	総数	構成比(%)	男	女	総数	構成比(%)	男	女	総数	男	女
総数	8,808	100.0	4,928	3,880	8,395	100.0	4,656	3,739	413	272	141
静岡県	5,701	64.7	3,182	2,519	5,039	60.0	2,765	2,274	662	417	245
岐阜県	292	3.3	168	124	298	3.6	171	127	6	3	3
愛知県	2,557	29.0	1,433	1,124	2,789	33.2	1,545	1,244	232	112	120
三重県	258	2.9	145	113	269	3.2	175	94	11	30	19